遠隔授業
ガイドブック
ーリアルタイム型ー

P1. リアルタイム型授業とは
P2. 授業の進め方
P3. 授業の準備
P4. 教育効果を高めるために
P5. 授業の工夫紹介

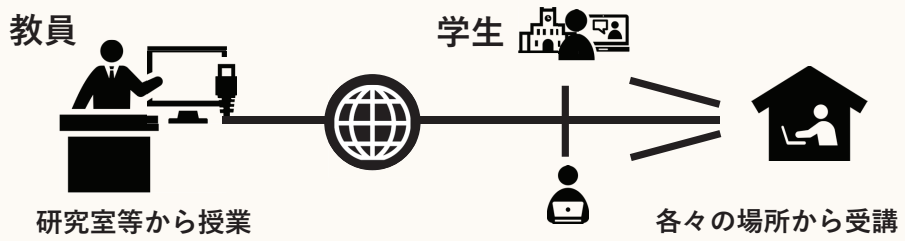
中京大学
教育推進センター

発行：2022年4月1日

リアルタイム型授業とは

リアルタイム型授業とは、オンライン会議システム等を通じて**教員と学生が同時双方向で行う**授業形態です。

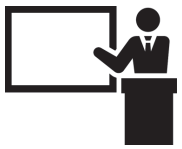
※同時双方向：オンライン上で教員と学生がリアルタイムに反応できる状態



特徴

グループワークや発表など、**対面に近い授業を展開**できます。

相性のいい授業



学生発表等の参加型授業

遠方の講師をゲストとして招聘する授業

典型的な教材

学生が作業できる教材

書き込みが必要なレジュメ

授業の流れが分かる教材

ポイントや補足のまとめ

Q&Aや躓きのまとめ

授業の進め方

リアルタイム型はライブ感がありますが、それぞれは個別受講のため交流の機会も必要です。

講義

×

交流

- 学生との対話
- 公開フィードバック
- グループワーク
- ゲスト講演
- 発表

学修到達目標に応じて「講義」と「活動」を組み合わせてください。

一方的にならないよう、学生同士や教員との交流機会を設けることが重要です。

授業の準備

基本的な４つのポイント

①専用の教材を作成する

学生は様々な媒体で受講するため、**見やすさの工夫**が必要です。

- 文字は大きく
- PDFで型崩れを防止
- 情報が多い場合は口頭説明にする

②オンライン会議システムの仕様を確認する

システムの仕様は事前に確認すると進行がスムーズになります。

- Microsoft Teams
- Zoom
- Google Meet

③学生に連絡する

- https：//~ システムへのアクセス用URLなどを正確に連絡する
- CHUKYO MaNaBo 確実な伝達手段を用いる（場合によっては複数）

④ネットワークトラブルに配慮する

トラブルへの対応方法は、事前に決定・共有してください。

※場合によっては柔軟に対応してください。

対応例

- 授業の録画
- ERROR トラブル時の連絡方法の周知

教育効果を高めるために

リアルタイム型の授業は一方的にならないよう、授業に参加できる環境を整える必要があります。

①集中できる環境を整える（「ながら見」を防ぐ）

授業中の書き込みが必要なレジュメ

学生への問いかけを意識する

②提出された課題にフィードバックする

学生の学習に対するコメントの返信、優良な回答の共有などで学習を促進

＋

課題と評価は
ワンセット

③質問やディスカッションの機会をもつ

リアルタイム配信＝双方向性ではありません。システムを活用して交流の機会を設定しましょう。

授業の工夫紹介

リアルタイム型授業を実践した先生方から寄せられた、授業の工夫を紹介します。

1. 機材・通信環境等の準備
2. 教材作成の工夫
3. 授業に参加させる工夫
4. 授業に集中させる工夫
5. 理解促進のための工夫
6. 理解度把握のための工夫

①機材・通信環境等の準備

安定した通信のため
有線LANを使用する

音質向上のため
ヘッドセットを利用する

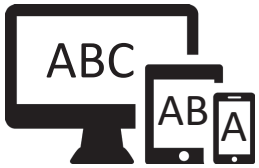
ツールは最新の状態にする

通信トラブルに備えて
録画する

資料提示用のカメラを使う

②教材作成の工夫

作業を伴う教材にする



様々な媒体に配慮して
字を大きくする

③授業に参加させる工夫

１コマに１人１回は
数秒でも発言させる

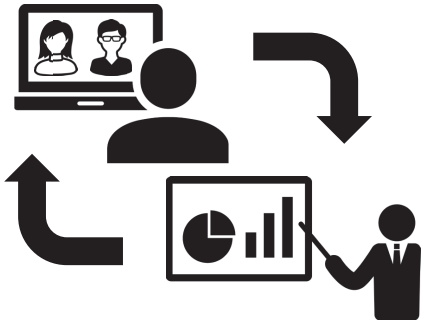
最初に学生から近況などの
話題を提供してもらう

リアルタイムで学生の反応を貰う

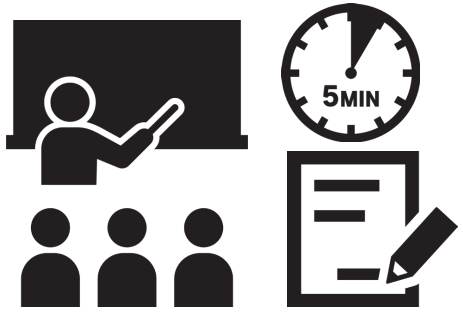
こまめにリーディングや
グループワークを行う

答える「ふり」でも
反応をしてもらう

④授業に集中させる工夫

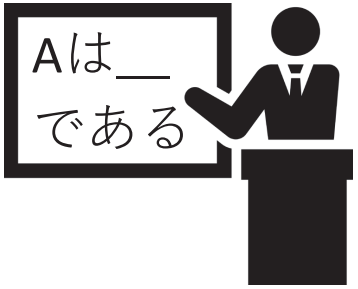


学生の顔を見ながら進めるところと、教材で説明するところを分ける



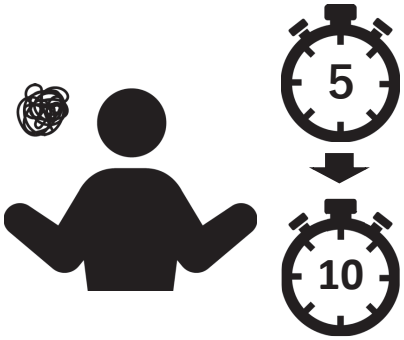
授業中に小テストやミニレポートを実施する

画面を共有しながら資料に書きこむ



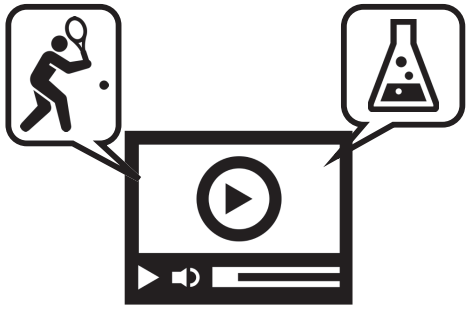
スライドに多くを載せず口頭の書き取りをさせる

⑤理解促進のための工夫

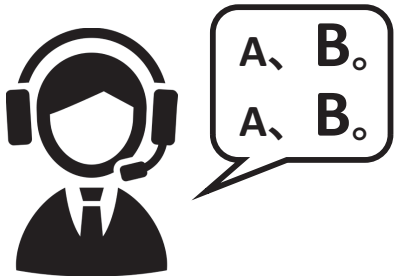


学生の様子を見て内容や時間配分などを調節する

事前に学生に予習させ、講義中はグループ学習等で反転学習を行う。



実験や実技は要点を動画にして繰り返し動きを伝える



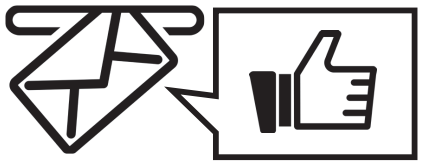
面接授業よりもゆっくり抑揚に気を付けて話し、ポイントは繰り返す

⑥理解度把握のための工夫

毎授業の後半10分で
質疑応答をする

チャットを利用した
質疑応答や授業外の
コミュニケーション

学生の顔を表示し、
反応や理解度を確認する



毎授業後にメール等で
コメントを集める

学生からの提出物は
次回の授業までに確認する

遠隔授業
ガイドブック
ーリアルタイム型ー

中京大学教育推進センター